



「慧弥守グループ」 1970年設立: 50周年 モニュメント

社は【凡事徹底】【本気】【認耐】【誠意】【創造】

2020年5月2日:「福原産業株式会社」は、設立50周年を迎えました。

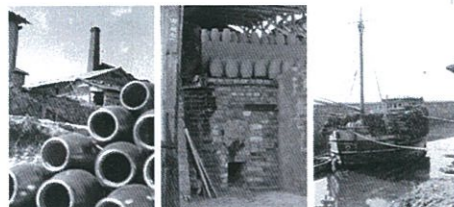
【事業の起源】

〈引用文献:安芸津町史 通史編: H23. 3月発行: 広島県東広島市〉

島根県浜田市金城町出身の福原源太郎が、大正12年(1923年)「関東大震災」に被災した後、良質な粘土で煉瓦が盛んに焼かれていた安芸津町(明治12年の山陽鉄道工事に向けた製造が始まりと伝わる)に辿り着き、「大正14年(1925年)に、益田窯から独立して、新たに風早に登り窯「福原製陶所」を築き、蛸壺製造を始めた。当初、蛸壺・土管の他に花瓶等の日用品も製造した。戦時中は、耐火煉瓦・砥石・薬品用壺を手掛けたが、戦後はもっぱら蛸壺を作った。」「工場の前から船で出荷していたが、国道185号が開通してからは船が工場まで入らなくなり、昭和39年、新たに海岸に製品置場と船着場を作った。主たる出荷先は、山口県平郡島、大分県姫島村や三原市、下蒲刈町で、平郡島には、船に一万個を積み、年に四回ほど出荷した年もあった。」一度に6,000個入るとこの窯で「ピーク時の昭和38.39年は、福原製陶1社で、一か月に五窯分を焼き、年間約30~40万個製造した。」

参考文献: 広島県教育委員会編 1994「広島県の諸職—広島県諸職関係民俗文化財調査報告書—」

「登り窯のレンガは福原製陶製で、組み上げ、修繕も福原製陶で行っていた。内部温度を1,300度に上げるために



福原製陶株式会社(昭和時代)

当初は薪を焚いていたが、昭和半ばから重油を燃料とした。保有した山から粘土を選び、蛸壺の原料とした。その粘土をロクロを使って成形し、外面にのみハケで釉を塗って窯詰めした。1980年頃、成形に外型を導入したが、それ以前は型を使っていなかったため、福原製陶の蛸壺の外面にはロクロ引きの跡が微妙な段差として残る。」

当時、出荷された蛸壺の一部は、瀬戸内海に沈み、今も魚礁として活躍しています。

「骨材センター」地鎮祭



1970年(昭和45年)9月

福原産業陶: 旧本社



2005年(平成17年)10月



福原産業株式会社



グリズリフィーダー

設立当時より平成初期まで、旧安芸津工場で長年にわたり稼働: 活躍していたグリズリフィーダーです。安芸津町から金城町の方に設置しています。

昭和39年10月に「福原砂利」として創業(河砂・海砂の仕入販売)、昭和42年10月: 砕石の製造販売を開始。

昭和45年5月に「福原産業株式会社」を設立しました。同年、海上輸送の拠点として、「骨材センター」(旧本社)埋立工事に着手。(1期: 昭和47年11月/2期: 昭和50年11月竣工)

また、「広島大学」統合移転構想の中で、昭和54年5月に西条町田口に営業所を開設しました。その後、平成元年1月に黒瀬工場を開設、平成2年10月: プラントを増設し、アジア大会特需への対応で2工場体制としていました。(旧安芸津工場は、平成15年5月に跡地整備検査完了)

弊社の製品(砕石/砕砂/栗石/路盤材/盛土材など)は、広島大学・山陽新幹線・山陽自動車道・広島空港・しまなみ海道・とびしま海道・福富ダム・東広島/呉道路など公共工事に、あるいは民間工事へ、コンクリート2次製品・生コン・アスファルトなどにも配合されて、皆様のご生活のごく身近に存在しています。

「安芸津工場」跡地完了 「黒瀬工場」着手



2003年(平成15年)10月



1990年(平成2年)9月



光陽産業株式会社



間知ブロック型枠

間知石に代わる資材で製造していた、1㎡当り10個のJISコンクリート積み間知ブロックの型枠です。型枠面を使用して谷積施工を再現しています。

昭和46年4月に設立されました。(昭和50年1月: 入野プレミアム工場新設/昭和57年4月: ブロック新プラント着手)

コンクリート間知ブロック/2次製品を、竹原管内および島嶼部へ、仁方フェリー経由等で販売していました。現在も重要なインフラとして、現役で存在しています。

その後、平成12年1月「安芸灘大橋の開通」、平成14年5月「建設リサイクル法完全施行」、平成17年2月「平成大合併」、平成20年11月「安芸灘とびしま海道全通」等々の時世に沿って、事業を展開しています。

- ・平成11年6月: 再生骨材事業(安芸津工場: 砕石場跡地)
 - ・平成13年1月: 建設発生土受入れ業(湖畔・木谷事業所)
 - ・平成14年10月: 木質バイオマス事業(安芸津新拓工場)
 - ・平成15年10月: 営業所開設(安芸津・西条・河内・黒瀬)
 - ・平成18年10月: 豊栄工場開設(平成28年3月: 太陽光事業)
- 地域の発展に、また「国土強靱化」整備工事等に向け、建設資材を安定的に供給する企業を目指します。

光陽産業陶: 旧本社工場



2005年(平成17年)10月

CR 2次製品: 入野工場



2005年(平成17年)10月

DUMP 株式会社アクセス



初期の運送部門

グループの運送部門を統括する目的で、昭和62年8月に設立しました。(当初の社名: 「ダンプユソー株式会社」) アジア大会特需対応に向けて、平成2年10月: 黒瀬営業所を開設。その後、「グループと地域社会をつなぐ」というコンセプトで平成8年8月に、現在の社名に変更しました。

新規の事業展開としては、平成15年12月: バイオマス燃料事業を開始。(平成19年5月: 廿日市営業所開設)

「土木: 開発事業部門」推進に合わせて、平成17年7月「硯広石」と業務提携を回り、当地: 黒瀬工場の開発促進へ繋がりました。また、平成24年10月: 「エコ地盤改良事業: HySPEED工法」施工代理店に参入しました。最近では、平成30年1月「JUVAC ドローンエキスパートアカデミー」広島校を開校し、ICT推進を図っています。

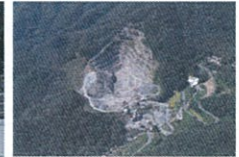
グループで培ったノウハウを、様々な観点から分析し、お客様にご提案できる、また、地域社会に貢献する新商品の開発を推進いたします。

陶アクセス: 旧本社



2005年(平成17年)10月

株式会社広石



2005年(平成17年)10月

◆ 当地の岩石について

《時間という概念を含む素材: 鉱物》

当地の岩石は、石英斑岩に分類されます。正確な噴出の年代は不明ですが、後期白亜紀(8,500万年から9,500万年前)に噴出し、花崗岩の熱で焼かれ再結晶化(接触熱変成作用)した高田流紋岩類に属します。加熱されたことで、より緻密な構成になっています。また、広島花崗岩類よりも高いところに分布し、山岳地帯をなしています。

《参考: 2019.5.9「電力中央研究所」コメントより》

◆ 皆様への感謝 ◆

グループの「今」は、お客様をはじめ、地元の皆様やお取引先様、関係各位皆様方のご愛顧とご支援、ご配慮の賜と心より感謝を申し上げます。

50年を振り返り、懐かしんで頂けるよう、これまでの歩みを纏めたモニュメントを設置致しました。

昭和から平成・令和と時代変遷を経て、最近では「西日本豪雨災害」「オリンピック: 史上初の延期」「新型コロナウイルス流行による「国家緊急事態宣言」の発令」など様々な出来事が発生しています。将来的にも、数多くの試練や逆境が、訪れるものと思われませんが、今後の発展を目指し、50周年を「第2の創業期」と位置付け、我グループならではの新たな企業価値の創造に挑戦していきます。

福原製陶: 登り窯



2020年: 令和2年5月吉日

株式会社 福原